資料ＮＯ．２の別紙１

平成２８年度酪農教育ファームスキルアップ研修会の概要

１．目的

① 交流活動が安心して行えるように、安全・衛生対策についても確認する。

② 酪農教育ファームファシリテーター（以下ファシリテーター）は経験年数や年齢、地域間などの差により、問題意識や課題の持ち方は様々である。そこで、各ファシリテーターが各々の課題に即してスキル（技術）の向上を図れるように種類別のプログラムを準備。ファシリテーターがプログラムを選択して参加、あるいは参加できる可能性を示すことで、酪農教育ファーム活動の目的である「食」と「しごと」、「いのち」の学びについて、より本質的な活動（子どもたちを中心にした体験者自らが気づき、日常生活に活かせる）に近づけるようにファシリテータースキルを磨いていく。
なお、いずれのプログラムも参加者同士が意見・情報交換できるようにディスカッションの場をセッティングする。

③ 中央酪農会議から、最近の酪農を巡る情勢について説明する時間を設け、情報・問題意識の共有を図る。

２．目標

① 自らが行う酪農体験を客観的な視点でふりかえり、他の酪農家の意見や思い講師（専門家）の知識や考え方などを参考にしながら、コミュニケーションスキルを向上させる。

② 子どもたちが酪農を通して「食」「しごと」「いのち」について気づき学べるように、研修会を通じて気づいたことを自らの体験プログラムに反映させる。

③ ファシリテーターが相互にコミュニケーションを図ることで、各地域のファシリテーター同士、関係性を深めていく。

３．H28・H29 ファシリテーター認証期限者と、今年度の参加目標人数

	ホクレン		東北		関東		北陸		東海		近畿		中国		四国		九州		沖縄				
認証期限	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28.29 合計	★H28.29 合計の2/1	受講目標人数 ★+5人
大阪会場											14	17	8	11	7	8					65	33	38
東京会場					14	71	3	31													119	60	65
名古屋会場									14	49											63	32	37
仙台会場			11	53																	64	32	37
札幌会場	17	54																			71	36	41
福岡会場																	9	26		4	39	20	25
受講予定人数	17	54	11	53	14	71	3	31	14	49	14	17	8	11	7	8	9	26	0	4	421		241

４．開催概要（６回開催）

会場名	大阪会場	東京会場	名古屋会場	仙台会場	札幌会場	福岡会場
開催日	９月９日（金）	９月３０日（金）	１０月１４日（金）	１０月２８日（木）	１１月１１日（金）	１１月２５日（金） ※仮日程
時間	１１時００分～１６時３０分まで					
開催場所	大阪市内会場予定	23 区内会場予定	名古屋市内会場予定	仙台市内会場予定	札幌市内会場予定	博多市内会場予定
情勢説明	中央酪農会議から、最近の酪農を巡る情勢等について説明。					
安全衛生講師	愛知県学校給食牛乳協会/事務局長　木島秀雄氏	千葉県農業共済組合連合会　中央家畜診療所/係長　島田亘氏	愛知県学校給食牛乳協会/事務局長　木島秀雄氏	千葉県農業共済組合連合会　中央家畜診療所/係長　島田亘氏	愛知県学校給食牛乳協会/事務局長　木島秀雄氏	有限会社いとしま動物クリニック/院長　酒井由紀夫氏
ワークショップ講師	イナアソシエーション代表 立野（たちの）美香氏	加茂牧場 加茂太郎氏	イナアソシエーション代表 立野（たちの）美香氏	NPO 法人ねおす　理事 上田融（とおる）氏	NPO 法人ねおす　理事 上田融（とおる）氏	加茂牧場 加茂太郎氏
ワークショップテーマ	ツールひとつで「いのちの大切さ」を語る	体験プログラムをブラッシュアップ② プログラムを練り、体験の質を上げる	ツールひとつで「いのちの大切さ」を語る	体験プログラムをブラッシュアップ① このひと言にたどり着くための、仕掛け方を学ぶ	体験プログラムをブラッシュアップ① このひと言にたどり着くための、仕掛け方を学ぶ	体験プログラムをブラッシュアップ② プログラムを練り、体験の質を上げる

＜ワークショップの内容詳細＞

■ツールひとつで「いのちの大切さ」を語る

支援教材をはじめ牧場にある道具、乳牛の餌など、酪農体験で使用するツールの使い方を一工夫加えることで、相手への伝わり方が格段に進歩する極意を参加者同士の知恵や知識、経験を持ち寄りながら見つけて行く。

■体験プログラムをブラッシュアップ①　このひと言にたどり着くための、仕掛け方を学ぶ

体験終了後、子どもたちに言わせたいひと言を決め、そこにたどりつくまでのプロセスを、ワークシートを使いながらバックキャスト（目標を設定して将来を予測）していく。まずは、牧場に到着したときあるいは体験が始まる前の子どもたちの心境やリアクションを起点に、それに対するファシリテーターの活動内容や台詞などを記入。その後５段階くらいを経て、最後子どもの心境やリアクションで「言わせたいひと言」にたどり着くためのストーリーを描いていく。

■体験プログラムをブラッシュアップ②　プログラムを練り、体験の質を上げる

自らが行う酪農体験の目的（ねらい）をもとに「導入」「展開」「まとめ」の項目に振り分け、自らのプログラムを可視化（言語化）する。その上で、留意点やポイントを加え、目的にたどり着く内容になっているかどうかを検証する。